

第 26 回 (令和元年度)

千葉県建築文化賞表彰作品集



主催：千葉県 共催：一般社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 森田 健作

令和元年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、建築文化や居住環境に対する県民の意識の高揚と、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを推進することを目的に平成6年度に創設されました。

第26回となる今年度は、相次ぐ台風と大雨により多くの方々が被災される困難な状況の中、67点もの御応募をいただきました。その結果、千葉県建築文化賞検討会議による検討内容を踏まえ、最優秀賞2点、優秀賞3点及び入賞4点の合計9点を選定したところです。

受賞作品は、新築の建物から既存ストックの有効活用と多岐にわたり、歴史的価値ある建物や伝統的な工法の保存継承を図るもの、地域の再生や交流を促す場所など、いずれも千葉の魅力を高め、地域の活性化に貢献する素晴らしい作品ばかりです。これらの建築物が、地域社会の中で親しまれ、本県の建築文化の向上と、より良いまちづくりの推進に寄与していくことを心から期待しています。

今後とも県では、皆様と共に、首都圏、日本をリードし、未来の千葉を担う次世代の子どもたちが誇れるような千葉県の実現に向け、全力で取り組んでまいりますので、引き続き御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、受賞者並びに御応募いただいた皆様のますますの御活躍をお祈り申し上げまして、あいさついたします。

令和2年3月

目 次

千葉県建築文化賞について	1	ニッケコルトンプラザ ツムグテラス	8
第26回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	moto.8	8
さわら町屋館(上川岸小公園)	3	One Table	9
椿庵	4	「地域とつながる小さな街並み」	9
犬吠テラステラス	5	選考の基準	10
宮下どろんこ保育園 つむぎ×TSUMUGICAFFE+子育て支援センターちきんえっぐ	6	千葉県建築文化賞検討会議	10
山武 野口邸	7	千葉県建築文化賞の実績(応募点数・受賞作品数)一覧	10
		受賞作品の位置	

第26回千葉県建築文化賞選考経過と総評

応募67点から9点授賞



(選考経過)

千葉県建築文化賞検討会議委員長 北原 理雄

第26回千葉県建築文化賞は令和元年6月の検討会議で募集要領を定め、7月上旬から9月下旬まで応募を受け付け、総数67点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに投票を行い、一般建築物8点、住宅5点を選んだ。次いで11月の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の検討会議で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

なお、今回も選考の公明性を保つため、委員と関係のある建築物が応募している場合は、そのことを確認したうえで、当該委員は討議に参加せず、票を投じないこととした。

その結果、最優秀賞2点、優秀賞3点、入賞4点を表彰候補作品として決定した。

多くの魅力的な作品を応募していただいた皆さまの熱意に、この場を借りて深く感謝したい。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)		
				最優秀賞	優秀賞	入賞
一般建築物		37	8	1	2	3
住宅		30	5	1	1	1
合計		67	13	2	3	4

(総評)

一般建築物の部

一般建築物の部への応募は37点であり、公共施設、保育園・幼稚園、店舗などを中心に、興味深い作品が見られた。

最優秀賞の「さわら町屋館(上川岸小公園)」は、重要伝統的建造物群保存地区の一角、小野川沿いに建つ無料休憩所を中心に、文化的活動の場としても利用される蔵、朝市などに使われる東屋が、中庭を介して配されている。伝統的町屋を再現しつつ、町屋の構造補強を念頭に置いた工法を試みるなど、町並みの連続性と同時に、その保存継承にも資する意欲的取り組みが高く評価された。

優秀賞の「犬吠テラステラス」は、本州最東端犬吠埼に立地する廃旅館をリノベーションしたコミュニティと観光の拠点である。増築が繰り返された建物はRC造・S造・木造が複雑に入り組んでいるが、それを敢えて残し、地域住民と観光客に居場所を提供する施設としている。柔軟なプログラムを含めて、民間主導で地域再生に取り組む試みが評価された。

「宮下どろんこ保育園 つむぎ×TSUMUGICAFE+子育て支援センターちきんえつぐ」は、民営化保育園と児童発達支援施設を併設した児童福祉施設である。既存園舎を残しながらの建て替えであったため、園庭が北側に配置されているが、建物の分節と入念な採光によって自然光に満たされた保育室が実現している。広い縁側を介して光あふれる庭に園児を導く手際もみごとである。

入賞の「ニッケコルトンプラザ ツムグテラス」は、大型商業施設に併設された都市型保育所であり、大きな中庭型園庭を囲んで教室を配置し、安全性と開放性の両立をはかっている。「moto.8」は、鉄道駅直近の裏通りに面して建つテナント兼用住宅であり、奥の店舗への通路を兼ねた中庭に、築約80年の木造住宅が解体・再現されてシンボルとなっている。「One Table」は、日本の道百選に選ばれた桜並木沿いの空き店舗を活用したカフェであり、飲食店経営を志す人のインキュベーターを兼ね、シャッター通り再生の起爆剤を目指している。

授賞にはいたらなかったが、新しいタイプの複合霊堂など、変化する社会ニーズに応えようとする公共施設の試みにも見るべきものがあつた。

住宅の部

住宅の部の応募は30点であり、比較的小規模な専用住宅が多かったが、設計密度の高い作品に恵まれた。

最優秀賞の「椿庵」は、旗竿敷地に建つ茶室付住宅である。通りからつづく路地の正面に、客人を迎えるように茶室が配され、右手玄関をくぐると、奥庭に向かって内路地が延びている。延べ床面積88㎡の小住宅だが、2階サンルームの格子床を通した光が1階に降りそそぎ、明るくゆったりした空間をつくりだしている。きびしい条件のもとで施主の想いとデザインが共鳴した作品と言える。

優秀賞の「山武 野口邸」は、里山を背負う築190年の旧家を大規模に改修した住宅である。建築当初の土間を再現し、その上部を大きな吹き抜けとしている。既存の建具類を再利用すると同時に、壁や開口部を断熱化し、床下に耐震ダンパーを設置するなど、居住性と防災性の向上をはかっている。黒漆喰と杉板の外壁にどっしりした瓦屋根をいただいた姿は、重厚な歴史の継承を感じさせる。

入賞の「地域とつながる小さな街並み」は、築100年の民家(イベントスペース)、蔵(カフェ+ギャラリー)、住まい(防災基地)の3棟を庭でつなげ、地域の人びとの交流の場として再生している。

授賞にはいたらなかったが、密集市街地の路地を取り込んだ共同住宅、房総の海と山の景観を取り込んだ住宅など、文脈に意欲的に応答しようとした試みが見られた。

最優秀賞

一般建築物の部

建築主：香取市

設計：有限会社TAKUMA建築設計事務所

施工：株式会社伊藤工務店

所在地：香取市佐原イ499番地1

～伝統と現代技術の統合による、町屋とまちなみの再生と創造～

うわがししょうこうえん

さわら町屋館(上川岸小公園)



小野川越しに眺める全景、門の奥に蔵と広場を望む

(撮影/小川 重雄)

佐原は川越、栃木と並び称される「三大小江戸」の一つで、小野川の両岸に沿って歴史的な街並みが保存されている。そのほぼ中心にかかる香取街道の忠敬橋近傍に本施設の敷地がある。かつては奥行きが深い、歯抜けのような空き地に過ぎなかった。

約500㎡のその土地は幸い平成23年に香取市が買収し、そこに誰でもが利用できる町屋や小公園を含む延べ床面積約330㎡の「さわら町屋館」が整備されることになった。プロポーザルの結果、伝統木造工法に関する知識と経験に長けた建築家を選ばれた。そして、十分に時間をかけた精緻な調査・研究に基づく企画・設計・材料選定・施工を経て、稀有な公共施設が誕生した。

川岸側は5寸柱を多用し、出格子や格子戸等からなる繊細かつ堂々とした2階建「休憩所」の間口がまちなみを繋ぐ。その右側の路地が奥にある広場、東屋、蔵(事務所+広間)へと誘う。公共施設であるがゆえに可能となった「まちの甍」の再興である。

一方、伝統木造の耐震構造に関して

は徹底的な技術的検討がなされ、オープンな店構えの部分とその奥の部分とで耐震性能を満たすべく、複雑な構法の統合によってその目的を果たしている。その際、地元有志による「町屋研究会」の長年に亘る研究成果と、大学研究室の助言が取り入れられた。

このような恵まれたプロジェクトにお目にかかる事はそう滅多にない。そして、日本建築の優れた伝統技術を継承する設計者や職人たちの献身的な仕事の出来栄は、ここを訪れ利用し眺める人々の心を大変豊かにしてくれる。建築文化として長く、そして丁寧に利用され続けることを切に期待したい。

(岩村 和夫)



夕暮れの通りから一階土間を望む



朝日の差し込む2階座敷

(撮影/小川 重雄)

最優秀賞

住宅の部

建築主：T氏
設計：一級建築士事務所ikmo
施工：株式会社 中野工務店
所在地：千葉市中央区

一路地と椿がつなぐ茶室付住宅一

椿庵



椿の木を用いた茶室



拡散する光が陰影を生む内土間



旗竿地の正面に見える茶室(外観)

(撮影全て/西川 公朗)

「椿庵」と名づけられたこの住宅は、四周を住宅に囲まれた旗竿地に建つ。家々の隙間から「椿」を連想させる赤い外壁が垣間見える。茶道を嗜む夫婦と子供2人のための住まいだ。

道路から唯一のアプローチである旗竿部を路地に見立てた先に茶室が見える。路地は90°折れ曲がり、玄関、内路地を抜けて奥庭まで巧みに誘導している。奥庭には1本の「椿」が植えられ、家族が集まるダイニングを見守る。この奥庭は唯一白い外壁で、椿の赤を引きたてると共に奥庭を明るくする。

待庵を意識したという茶室は施主と設計者のこだわりの空間だ。踊り口はゆとりのあるスケールで入りやすく、家族に「お帰りの一服」を振る舞う場だ。中板2畳の小さな空間は亭主と客にほどよい距離を生む。施主が山から切り出

した椿の木の床柱、赤みの杉と淡い色の左官の取り合わせ。茶の湯の音を聞くことはかなわなかったが茶花の主役椿の花が似合うやわらかな印象の茶室に仕上がっている。

家の平面構成や動線、断面計画はシンプルで隅々まで丁寧に考えられている。内路地に面する一段上がった8畳間は生活の場であり、客間や茶道教室などに使える多目的スペースだ。天井は構造材を格子状に組んだ格天井として無駄なく表現している。内路地に沿って、水屋、収納、デスクを配置し天井部はすのこを介して2階のプライベートスペースと緩やかに繋がる。周辺の建物の隙間に開いた窓やトップライトから取り込んだ光と風を実に巧く家全体に拡散している。

建築主と設計者が丁寧に作りあげた「椿庵」は各所の椿が住人をつなぐ完成度の高い住まいである。(藤本 香)

優秀賞

一般建築物の部

建築主：株式会社 大勝
設計：株式会社 篠崎弘之建築設計事務所
施工：株式会社 三幸
所在地：銚子市犬吠埼9 5 7 5 - 2

灯台に習ってリノベーション

犬吠テラステラス



塩害に強く、地域に開かれる透明性を持った外観

(撮影/池本 史彦)



既存RC空間を助長するカフェスペース

(撮影/池本 史彦)



銚子らしい素材で憩える家具計画

(撮影/株式会社篠崎弘之建築設計事務所)

本州最東端、犬吠埼灯台の足元にあつて、閉まっていた旅館が、明るく、のびやかに開かれた場に生まれ変わった。地元の建設会社が土地建物を入手し、5年ほど前からその半分でサービス付高齢者住宅を運営しているが、手付かずに残っていた残り半分の4,000㎡超の2階建て建物を、灯台を訪れる観光客と地元に住む人たちに開かれた施設にリノベーションした。

マルシェ、カフェ、みやげもの屋、一見、道の駅のような施設だが、地元企業と市民が運営を担っている民間施設だ。パン屋の店長は、建設会社の社員だという。元宴会場だった2階大広間は、地元の人たちの口コミで集められた産品がずらりと並ぶ銚子セレクトショップだ。そして外に面した広々としたテラスがいい。漁網製のハンモックベンチが並び、朝日の昇る水平線をのんびり展望できる。

右肩上がりの時代に、RC造・鉄骨造・木造とその場で増改築を重ねてきた典型的な旅館で、鉄骨柱や梁の補強やプレースの取り替えなどを全面的に行なったリノベーションの労作だ。建物内外を問わず、開け放しても塩害に耐えるよう、明るい色でフッ素樹脂塗装している。灯台はいつも真っ白だが、その肌理は頻りに塗装を繰り返してきた時間の積層を伝えている。リノベーション全盛期にあつて、新旧を対比させずにあえて等価に扱う「灯台スタイル」が成功している。

サ高住に入居する高齢者にとつても、このような施設と繋がっていることは魅力だ。高齢者と老朽化した建物が増える地方のニーズに応じて、地元建設業と建築家の知恵が見事に結実している。

(岡部 明子)

優秀賞

一般建築物の部

建築主：社会福祉法人どろんこ会
設計：ユニップデザイン株式会社
施工：株式会社新昭和
所在地：君津市宮下2-25-1

地域と共に「元気をつくる」児童福祉施設

宮下どろんこ保育園 つむぎ×TSUMUGICAFE+子育て支援センターちきんえっぐ



航空写真

自然豊かな住宅地に佇む、木造平屋建ての園舎。北側の園庭にも日中の日が降り注ぐよう、真ん中の屋根の高さを抑えている。

市営保育園の老朽化に伴い、新たに民営化した保育園に加え、児童発達支援施設を併設した「宮下どろんこ保育園」は児童福祉施設がもつべきと思われるやさしい光、やさしい手ざわり、やさしい交流の気遣いが、多様に造られていた。

この計画は旧園舎を利用しながら建替えを行うので建替え後には園庭が北向きの建物になるため、北側正面にありながらも日中の自然光が各所に行き届く様、ハイサイドライトやトップライトを多様に配置する事により明るい園舎となっていた。園庭に面した屋根付の縁側が、内部と外部のクッションにもなり、園児の移動空間がプレイルーム、時には食事スペースにもなり、多目的な位置付けへの意図が感じられる。

建物全体をS字型にする事で、0～1歳児保育、2～5歳児保育、発達支援、地域子育て支援(カフェ付)、管理部門が敷地も含めゾーニング的にまとまりを感じ、園舎への自然光取り入れにも一役かっているのが建物形状の特徴と言える。

園庭には大きな築山、シンボルツリーに畑、そして山羊、鶏も飼われていて、園児たちが畑で食物の成長を見、築山であそび、動物とふれあい、広場で走る様子が、目にうかぶ心地良い場所と感じられる。又園庭から園舎を見ると北側正面に設けられた縁側広場の役割があらためて感じられた。

社会福祉法人どろんこ会様の園児教育や福祉の取組みを多く感じさせられた建築物であり、君津市宮下地域と密接した園が、今後大きな役割を果たしていくことを期待したい。

(竹江 文章)



地域子育て支援室

誰でも気軽に訪れることのできるカフェ。こどもたちも園庭から駆け付ける。



縁側

スリット状のトップライトから自然光が降り注ぎ、北側に面する縁側を明るく照らす。

(撮影全て/小川 重雄)

優秀賞

住宅の部

建築主：野口 寛尚

設計：住友林業ホームテック株式会社

施工：住友林業ホームテック株式会社

所在地：山武市森273

～古民家再生による地域遺産の継承～

山武 野口邸



全景

千葉県山武市の谷津の中腹にたたずむ本建築は、江戸後期の文政期に建設された築190年になる豪壮な古民家である。創建当初から瓦葺きであったという寄棟の大きな屋根の下、式台を備えた格式高い家である。

今回の改修では、主に昭和期に改装された部分を解体し、土間を再現している。土間上部は太い梁の見える吹き抜けとし、南・東側には高窓を設置することによって、通風と採光を家屋深部にまで届ける空間となった。

また、古い家につきものの寒さ対策としては、窓・床・天井を断熱化し、居間・寝室には床暖房を設置。土間には山武市が利用促進をしているペレットストーブも導入され、万全の体制となっている。

構造面においても、床下の防湿コンクリートを打設し、制振ダンパーも設置することで、古い家に住み続ける上での安心安全対策も十分に行われている。

家の随所には、大阪障子や手すりなどの旧材が再利用されている。とくに、北西手洗いの奥に隠れていたという格子とその上部の欄間彫刻は、外側にガ

ラスを入れて採光ができるようにした上で再生されているが、繊細な彫刻から陽が差込む様子には、数人ずつ拝見していく審査員が次々に感嘆の声をあげていた。

近年、古民家の再生事例の応募はとみに増えている。千葉県下にこのような豊かな建築遺産があることに驚く。これらの建築を今まで維持されてきた方々に敬意を表するとともに、こうした取り組みがさらに広まることを期待したい。

(穎原 澄子)



復元し吹き抜けとした玄関土間



玄関土間上部

江戸時代の松の小屋組みと6mのケヤキの大黒柱

入賞

一般建築物の部

建築主：日本毛織 株式会社
設計：株式会社 竹中工務店
施工：株式会社 竹中工務店
所在地：市川市鬼高1-1-1

～子育て支援環境のさらなる充実を目指す商業施設の挑戦～

ニッケコルトンプラザ ツムグテラス

1920年からこの地で創業してきた日本毛織中山工場の跡地に1988年開業した大型商業施設ニッケコルトンプラザのアネックス棟を建て替え、商業施設および保育園を設置したものである。

近年の保育所不足に対して、さまざまな設置場所が模索されているが、一般に保育施設を併設した場合の賃料収入は併設しない場合よりも下がる傾向にあると言われている。しかし社会全体で子育てを支援する体制づくりは急務である。

当施設は、1階に商業施設、2階に中庭型の保育施設を計画することにより、400㎡にもおよぶ大規模な園庭を確保することに成功している。また、保育士の約半数を英語ネイティブスピーカーとするなど特徴ある運営を行い、子供の送り迎え時の商業施設利用を促進しつつ、新たなライフスタイルの創出に取り組んでいる。

施設デザインは、子供の職業体験を企図したカラフルなエリアが目目をひくが、それを引き立たせるスタイリッシュなデザインが秀逸である。また、子供のスケールにあわせて2階の階高は低く設定されているが、それは、周辺環境への配慮にもつながっている。

青空に開かれた第二の地盤面からどのような子らが育ってゆくのか、楽しみである。
(穎原 澄子)



外観
商業施設内に浮かぶ中庭保育園



中庭
安全性と開放性を両立する2階中庭
(撮影全て/株式会社ナカサアンドパートナーズ 藤井 浩司)

建築主：株式会社パールユニティ
設計：みかんぐみ
施工：西武建工株式会社
所在地：市川市八幡三丁目7番17号

入賞

一般建築物の部

歴史的建築物と共生する商業施設

もとっぽち
moto.8

木造建築の商業施設及びオーナー住居を持つ建物が、駅の近くに有り、入ってみたくなるひとときを目立つのが名称「moto.8」である。

総武本線本八幡駅より徒歩にて、5分ぐらいに位置する場所で大通りから一本内側に入った所に有り、木質感を思いっきり表現した建物であった。

テナントは、1階に6店舗、2階に4店舗そして住居からなる建物中央のパーティオ的空間の中に、築80年程の木造母屋が再建築された。この母屋は、「同潤会アパート」等の設計で知られる同潤会メンバーの「柘植 芳雄 氏」の初めての木造住宅設計の可能性が高いものであることが、敷地調査の段階で分かったとのこと。その為、中央にシンボルとしてその母屋を再現し、新しいテナントとして再生することで、この地の文化や記憶を体感することが出来る空間になっている。

この母屋の前面には、コミュニティ広場が配置され、地域の人々の集まるスペース及びイベント会場となり集客にも一役を担っている。

旧宅の庭と樹木もそのまま残したことにより、この地の歴史や文化を感じてくれるのも分かる。

都会の中のアオアシス的「moto.8」が、今後も地域住民とのコラボレーションで、長く愛され活用される建物になるであろうと実感した。
(竹江 文章)



旧母屋復元 正面全景

既存家屋を忠実に再現し、下屋、瓦、格子、玄関扉等は部材を再利用している。新設されたテナント部分との隙間に庭が回り込むように見えることで、コミュニティ広場の世界を形成している。



旧母屋復元(茶室部分)

柱、雪見障子、照明、欄間を再利用し、茶室部分を復元している。長押、欄間、開口部納まりを忠実に再現している。

(撮影全て/みかんぐみ)

入賞

一般建築物の部

建築主：大島稜司建築設計事務所
設計：大島稜司建築設計事務所
施工：大島稜司建築設計事務所
所在地：松戸市常盤平陣屋前1-13

カフェから見える商店街の未来

One Table

買い物カゴを下げた近隣の主婦たちでにぎわう商店街は、なつかしい昭和の風景に退いてしまった。One Tableは、そんな商店街のお店をリノベーションしてできた40㎡足らずのカフェである。桜並木に面するこじんまりしたスペースはしっとり居心地がいい。



さくら祭りの風景



店内からさくら通りを臨む

このカフェを運営するのは、並びの店舗を改装して設計事務所になっている建築家の大島さんだ。曜日によって出店者は異なる。シャッターが下りたままの街並みはさびしい。大島さんは、これから飲食店で独立したい人を応援できる場所としてOne Tableを始め、ひとつでも多くのシャッターを開けたいと思ったそうだ。きっかけは東日本大震災のボランティアを経験して、日本の社会問題に関心が向いたことだった。One Tableを巣立って、松戸市内で起業した人も複数いるという。

目の前の並木道は、春には、新京成線と並行して常盤平団地を通り3kmにおよぶ桜のトンネルになる。常盤平団地は郊外開発の先駆けとして知られたが、今では住人の多くが高齢化し外国人が増えている。商店街2階の賃貸アパートの入居者の多くも外国人だという。建築家が商店街でカフェと事務所を行き来することで、高齢者と外国人の増えた東京郊外に求められる商店街の新たな役割が見出される予感があった。
(岡部 明子)

入賞

住宅の部

建築主：山口 輝夫
設計：株式会社 杉坂建築事務所
施工：株式会社 杉坂建築事務所
所在地：松戸市南花島

—100年の古民家を中心に地域の交流の場をつくる—

「地域とつながる小さな街並み」

計画地は約1,000㎡の敷地に①古民家②蔵③住まいの3棟が建ち、板張り外壁が連続する「小さな街並み」を形成している。「築100年の古民家を地域の方に活用してもらう」という施主の思いからスタートした。

中心となる古民家は、増改築を重ね25年間使われていない状況だったが、子供食堂や演奏会などのイベントを想定して性能、機能改修を施した。和室を玄関土間に改修したスペースは新たに設けた開口部から庭につながり、オープン厨房が隣接する多目的空間となった。大広間との段差は階段ベンチとして連続的に使用できるようになった。大広間(和室10+10畳)は板張りの一体的空間として再生し、和洋問わないイベントが行えるようになった。

蔵は内装改修後にカフェ+ギャラリーとして稼働し、施主がコーヒーを提供する。住まいは住宅としての機能と性能を保ちながら、薪ストーブや井戸をとり入れ、防災拠点となることを念頭に計画された。

3棟は地域活動の場を提供する一歩に成功したと言えるが一方で現状は外部から「小さな街並み」の様子はわかりにくい。今後外部の景観や地域活動にも影響を与えるように発展していくことで、今回の計画がより意義のあるものになると考える。

(藤本 香)



改修古民家(イベントスペース)、蔵(ギャラリー)と新築(住まい)の三棟が庭でつながる。



築100年の古民家改修、子供食堂など様々な催しが行われる。

(撮影全て/(株)イメージグラム 渡辺 良太郎)

選 考 の 基 準

次の事項を選考の基準とし、総合的に審査します。

- | | |
|------------------------|------------------------|
| ○デザイン性に優れていること | ○まちなみや周辺の景観と調和がとれていること |
| ○安全で快適な建築空間を創出していること | ○環境負荷の低減に配慮していること |
| ○防災への配慮がなされていること | ○施工上優れていること |
| ○その他、独自の取組や提案がなされていること | |

※建築基準法等の諸法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないこと等も含む。

第26回千葉県建築文化賞検討会議

【敬称略 委員は五十音順】

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 委員 長 北原 理雄：千葉大学名誉教授 | 委 員 穎原 澄子：千葉大学大学院准教授 |
| 副委員長 岩村 和夫：東京都市大学名誉教授 | 委 員 岡部 明子：東京大学大学院教授 |
| | 委 員 竹江 文章：一般社団法人千葉県建築士会会長 |
| | 委 員 藤本 香：建築士、千葉大学非常勤講師 |

千葉県建築文化賞の実績（応募点数・受賞作品数）一覧

回数	年度	応募総数	建 築 文 化 賞			建築文化奨励賞
			部 門		合計	
1～19回計 (H6～H24)		1,600	景観上優れた建築物の部	46	96	58
			ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部	26		
			環境に配慮した建築物の部	24		
20	H25	68	一般建築物の部	4	6	2
			住宅の部	2		
1～20回計		1,668			102	60

回数	年度	応募総数	部 門	建 築 文 化 賞			
				部門別内訳	最優秀賞	優秀賞	入賞
21	H26	52	一般建築物の部	1	2	3	6
			住宅の部	0	1	2	3
22	H27	54	一般建築物の部	1	3	2	6
			住宅の部	1	1	0	2
23	H28	98	一般建築物の部	0	3	2	5
			住宅の部	0	3	1	4
24	H29	81	一般建築物の部	1	3	2	6
			住宅の部	0	2	1	3
25	H30	75	一般建築物の部	0	2	3	5
			住宅の部	1	2	1	4
26	R 1	67	一般建築物の部	1	2	3	6
			住宅の部	1	1	1	3
合計		427		7	25	21	53

- ※1 千葉県建築文化賞は、「景観上優れた建築物の部」及び「高齢者・障害者等に配慮した建築物の部」の2部門への表彰制度として平成6年度に創設。
- ※2 第3回(平成8年度)に「建築文化奨励賞」を新設。
- ※3 第5回(平成10年度)に「環境に配慮した建築物の部」部門を新設。
- ※4 第12回(平成17年度)に「高齢者・障害者等に配慮した建築物の部」から「ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部」へと部門の名称を改称。
- ※5 第20回(平成25年度)に「景観上優れた建築物の部」、「ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部」及び「環境に配慮した建築物の部」の3部門から「一般建築物の部」及び「住宅の部」の2部門へと部門を再編。
- ※6 第21回(平成26年度)より「建築文化賞」及び「建築文化奨励賞」から「最優秀賞」、「優秀賞」及び「入賞」へと賞の区分を再編。

千葉県建築文化賞は、多くの皆様の協力で支えられ、回を重ねてまいりました。
その間、県下の広い地域にわたり、155(奨励賞を含めると215)の建築物が受賞され、それぞれの地域に根付いています。
第27回の作品応募は、令和2年夏頃行う予定です。皆様方の御応募をお待ちしております。



第26回千葉県建築文化賞に御応募いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。応募総数67点の中から最優秀賞2点、優秀賞3点及び入賞4点の、合わせて9点が選定されましたが、応募作品はいずれも優れた特徴をもった質の高い作品でした。

作品に携わられた皆様に敬意を表すとともに、今後ますますの御活躍を期待しております。

(千葉県建築文化賞検討会議事務局)



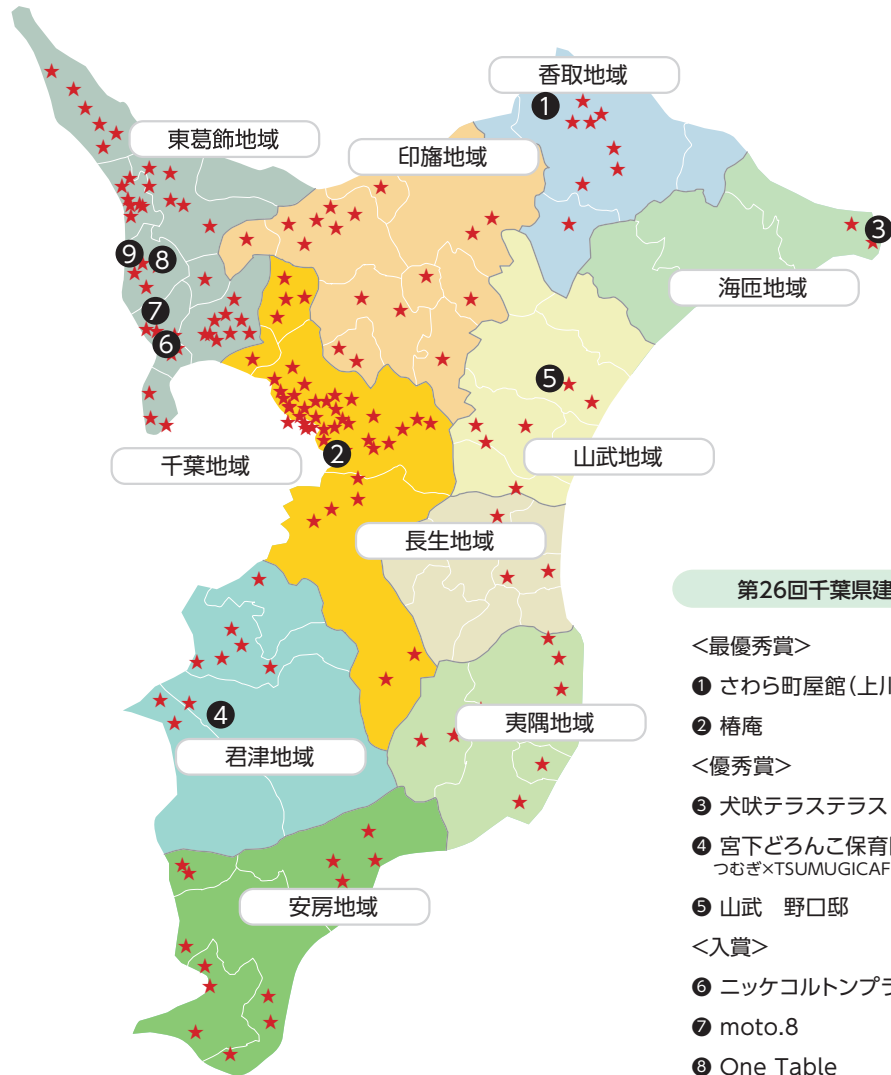
受賞作品の位置

建築文化賞受賞作品

所在市町村別の数

千葉市	32
銚子市	3
市川市	7
船橋市	7
館山市	3
木更津市	5
松戸市	8
野田市	6
茂原市	2
成田市	2
佐倉市	2
東金市	3
習志野市	1
柏市	5
勝浦市	1
市原市	5
流山市	7
八千代市	3
鴨川市	4
鎌ヶ谷市	1
君津市	2
富津市	2
浦安市	3
四街道市	2
袖ヶ浦市	1
八街市	1
印西市	6
白井市	1
富里市	1
南房総市	4
香取市	7
山武市	3
いすみ市	3
大網白里市	1
酒々井町	1
栄町	1
多古町	1
一宮町	1
大多喜町	4
御宿町	1
鋸南町	2

計 155



第26回千葉県建築文化賞

<最優秀賞>

① さわら町屋館(上川岸小公園)

② 椿庵

<優秀賞>

③ 犬吠テラステラス

④ 宮下どろんこ保育園

つむぎ×TSUMUGICAFE+子育て支援センターちきんえっぐ

⑤ 山武 野口邸

<入賞>

⑥ ニッケコルトンプラザ ツムグテラス

⑦ moto.8

⑧ One Table

⑨ 「地域とつながる小さな街並み」

★は1～25回の建築文化賞受賞作品

お問い合わせ先

千葉県県土整備部都市整備局建築指導課
一般社団法人 千葉県建築士会

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1
TEL.043(223)3180 FAX.043(225)0913

〒260-0013 千葉市中央区中央4-8-5
TEL.043(202)2100 FAX.043(202)2101

後援

(公社)千葉県建築士事務所協会

(一社)日本建築構造技術者協会関東甲信越支部JSCA千葉

(一社)日本建築学会関東支部千葉支所

(公社)日本建築家協会関東甲信越支部千葉地域会

(一社)千葉県設備設計事務所協会